書 類・面 接

何を評価するのか

『書類・面接』での評価の主な観点は次のとおりです（入学者選抜要項より）。

志望動機、意欲、適性、基礎学力、表現力

このうち、**基礎学力**は出願書類の “調査書” を、**表現力**は出願書類の “ソフトウェア情報学部志望理由書” を、それぞれもとにして評価します。

志望動機、意欲、適性については、出願書類や面接（個人面接）を通じて評価します。

以下では、はじめに『書類』と『面接』に共通な事項について述べ、そのあとで、それぞれについて説明します。

志望動機・意欲

志望動機・意欲で大切なことは、「あなたの将来や夢は何か」、「それを実現するためにソフトウェア情報学部で何を学びたいのか」です。これらを明らかにするためのポイントは次のとおりです。

a) 現時点での将来の夢や目標は何か。
b) その夢や目標をもった理由は何か。
c) その夢や目標を実現するためには、大学で何を学ぶとよいのか。
d) 岩手県立大学ソフトウェア情報学部で、それらを学ぶことができるのか。
e) 他大学でも学べる内容がある場合、岩手県立大学ソフトウェア情報学部でそれらを学ぶ理由は何か。

これらのポイントを自問自答しながら、志望動機・志望理由を明確にしてください。そのためにも、ソフトウェア情報学部で学べることをよく調べてください。自分が学びたいことが本当に学べる学部であるかどうかについて検討に検討を重ねてください。本学部についての情報は、パンフレット、Web ページ、進学情報誌、受験参考書、高校の先生、進学した先輩、オープンキャンパス、大学祭、大学説明会、進学相談会などを通じて手に入れてください。

適　性

本学部では、「コンピュータやソフトウェア、情報に強い関心や興味を持っている」次のような学生を求めています。

(1) 人間、社会に対して強い関心や興味がある。
(2) 将来、社会で役に立ちたいという夢や希望を持っている。

(3) よく観察し、筋道を立てて考え、自分の考えを人に伝えることができる。
(4) 高校教育課程で定められた基礎学力を身に付けており、得意科目や得意分野、特技を持っている。

適性では、本学部が求める学生像にどれくらい合っているかどうかが、受験生のこれまでの活動を通じて評価されます。そのため、出願書類や面接の中で、

- これまでにどのような困難に直面したのか、それをどのように乗り越えてきたのか。
- 何かに取り組むときにどのようなことをしてきたのか。
- 部活動や家庭、地域などでどのような活動をし、どのような経験をつんできたのか。

というようなことを具体例（エピソード）をおりまぜながら伝えてください。

実際には、出願書類で記入できる項目やスペースは限られています。また、面接で話せる時間にも制限があります。この制限はどの受験生に対しても同じです。与えられた制限の中で、自己アピールできるように、自分を振り返り、自分の長所や短所を分析し、自分ならではのエピソードを思い出しながら準備してください。ここでいう活動やエピソードは、大会での入賞、資格の取得、高校内外からの表彰などの実績に限りません。また、コンピュータに関する活動や成果である必要もありません。日常的な高校生活の中での活動や経験でかまいません。成功・失敗に関わらず、次の内容について整理してみてください。

- どんな活動を行ってきたのか。
- どのようなことを経験してきたたのか。
- 活動や経験から学んだこと、得たことは何か。

ソフトウェア情報学部志望理由書作成のポイント

出願書類のうち、受験生本人が作成するのは「ソフトウェア情報学部志望理由書」（以後、「ソフトウェア情報学部志望理由書」は志望理由書と略記）です。

志望理由書には、作成にあたっての注意事項などが明記されています。それらをよく読み、指示にしたがって丁寧に記述してください。

「志望動機・意欲」「適性」の項で述べたことを参考に、何を書くべきか、何をアピールすべきかを決めたら、まずは下書きをしてください。パンフレットなどから文章などを引用する場合には、あなた自身の言葉で表現してみる、自分の想いや考えを追加するなどしてください。あくまで、評価されるのは引用した文ではなくて、あなたの自身の言葉です。

下書きができたら、音読してみたり、他の人に読んでもらってください。志望理由書の読者（評価者）に、自分が伝えたいことが正確に届くように十分に推敲してください。

志望理由書に清書するときに書き損じたり、清書後に読み直したときに修正箇所に気がついたりすることがあるかもしれません。そのときには、修正液や取り消し線によって、修正

してもかまいません。修正したことは減点の対象になりません。

面接を受けるときのポイント

面接においても「志望動機・意欲」「適性」の項で述べたことが主な評価の観点です。そのため、出願書類の中で記載したことを面接の中で問われることがあるかもしれません。その場合には、「書類で書いたことなのに」とは思わずに、繰り返しになってもかまいませんので、口頭で説明してください。

面接の中で、コンピュータを使ってのプレゼンテーション、コンピュータや情報分野に関する口頭試問は行いません。ただし、受験生が、例えば「スマートフォンのアプリに興味があります」と話した場合、「どんなアプリですか？」、「自分で作ったことはありますか？」「〇〇〇との違いはなんですか？」などといった問いかけをすることはあります。あるいは受験生が「情報関連の△△△の資格をとることができました」と話した場合には、「学校でまだ習っていない専門に関することはどのようにして勉強しましたか」、「（資格に関連した専門用語としての）□□□を説明できますか」などといった問いかけをすることはあります。このように、受験生自らが話した専門的な話題に関しては、詳しく問いかけることがあります。これは、「どんなことに興味をもっているのか」、「興味の深さはどのくらいか」、「困難に対してどのように対処したのか」、「自分で調べたことは何か」、「自ら取り組んだことは何か」などを確かめるためです。たとえ、技術的に間違った回答、勘違いの回答、わからないという回答であったとしても、そのことだけで不合格になることはありません。大切なのは正解ではなく、「あなたが活動や経験から得たこと」です。そのため、技術的なことについてはあなたが理解している範囲で答えてください。

なお、面接者（評価者）はプライバシーに配慮した質問を行うよう心がけておりますが、プライバシーに関することで答えたくないときには、「プライバシーに関することなので、答えられません」と伝えてください。このときの質問については評価の対象としません。

面接では受験生と面接者（評価者）との対話も重要視されます。受験生が一方的に志望理由などを話して終わりではありません。面接者からの質問に長々と回答することはせずに、簡潔に答えてください。質問が聞き取れないときには「もう一度お願いします」と伝えてください。また、質問の答えを頭の中で整理する時間がであれば「少しだけ時間をください」と伝えてください。

そうはいっても、予想外の質問に動揺したり、「この面接が合否に関係する」と思うあまり、緊張して言葉につまったり、頭で考えていたことと違うことを口走ったりすることがあるかもしれません。面接者 (評価者) は、受験生が緊張していることを承知したうえで評価していますので、安心して面接にのぞんでください。